

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670102724
法人名	有限会社 コーボー
事業所名	グループホーム コーボー
訪問調査日	平成20年10月15日
評価確定日	平成20年11月15日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670102724
法人名	有限会社 コーボー
事業所名	グループホーム コーボー
所在地	鹿児島市西陵5丁目12番3号 (電話) 099-283-6723
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年10月15日

## 【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年4月30日
ユニット数	3 ユニット
職員数	26 人
利用定員数計	27 人
常勤	11人, 非常勤 15人, 常勤換算 22.5人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨作り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	27名	男性	3名	女性	24名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	10名	要介護4	7名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.96歳	最低	74歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム近辺には、スーパーや学校、銀行や公園などがあって利便性に優れており、買い物や散歩など日常的に外出しやすい環境である。地域との交流を積極的に行っており、互いに行き来し合うことで、グループホームの役割を地域住民に知ってもらい良い機会となっている。職員は、利用者一人ひとりの”その人らしい生活”を実現するために、当たり前の事を当たり前できるように、創意工夫しながら熱心に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流を通じた向上については県、市の認知症グループホーム連絡協議会や他のホーム管理者との勉強会を通じての情報交換、相互訪問を通じて交流を図り、ケアの質向上に反映させている。チームで作る利用者本位の介護計画については、関係者との話し合いや個別の記録から課題を検討して介護計画を作成している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に、ミーティングや朝礼の時間を利用して評価の意義について話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回指摘のあった項目についてはミーティングで報告し、内容を検討して改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの近況報告や意見交換が行われているが、特徴的なものに勉強会の実施が挙げられる。認知症や高齢者に関わる勉強会を実施することで、参加者が認知症やグループホームの役割を理解することができ、より強い協力体制が構築されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	通常の訪問時に加え、年に1回行われる家族会や運営推進会議で声かけをし、ご家族の意見を引き出せるようにしている。また、ご家族に対するアンケートを実施し、面と向かっては言えない率直な意見を引き出し、出された意見は運営に反映するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や文化祭、防災訓練、清掃活動など地域住民の一員として多くの行事に参加している。地域の小中学生が体験学習などで訪れ、その後も訪問してくれるような関係が継続しており、地域との交流が積極的に行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく、当たり前の事を普通にできるように支援し、地域住民との関係性の継続を謳った理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念の唱和を行い、共有に努めている。加齢に伴い様々な身体機能が低下する中、トイレでの排泄、買い物、散歩などを継続して行えるように心がけて、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる文化祭や運動会や町内会の清掃活動に参加し、地域へ出向き交流の機会を持っている。ホームへ職場体験学習などで訪れた小中学生が、その後も訪問する姿もあり、地域と行き来できる関係性を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に、ミーティングや朝礼の時間を利用して評価の意義について話し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回指摘のあった項目についてはミーティングで報告し、内容を検討して改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行される「コーボーだより」に運営推進会議の開催日時を掲載して、ご家族の参加を呼びかけている。市の担当者やご家族、地域住民の参加のもと、2ヶ月に1回開催され、勉強会や意見交換を行っている。前回の外部評価結果についても報告し、改善に向けた話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営上の課題について、市の担当者と連携して取り組んでおり、問題解決に至っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「コーボーだより」において、ホームでの暮らしぶりや新入職員の紹介をしている。健康状態に変化があった場合には、早急に電話連絡して対応している。金銭管理については、ご家族の訪問時に出納帳を確認していただきサインをもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や年1回の家族会をはじめ、運営推進会議に出席されたご家族に声かけするなどして、意見や希望を引き出すように努めている。さらに、ご家族を対象としたアンケートも実施しており、ご家族の思いを知ることができるように工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合には利用者に紹介し、できるだけ利用者と接する時間を多く持つことで、馴染みの関係が早く築けるように配慮している。職員との関係性を重視し、ユニット毎の職員は固定させ、入れ替わりがないように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部研修への参加を積極的に促し、職員のスキルアップに努めている。研修参加後はミーティングで報告を行い、研修報告書を提出していつでも閲覧できるようにしている。また、日々の現場教育とあわせて、月別の年間研修計画を立案して内部研修を実施しており、職員の学ぶ機会を十分に設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市の認知症グループホーム連絡協議会の会合に出席したり、他のホーム管理者と勉強会を実施するなどして情報交換を行っている。また、職員および利用者には、他のホームとの相互訪問で交流を図り、お互いのホームを知る機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、ご家族に見学してもらい、ホームの雰囲気を感じた上で入居を決めていただいている。本人の見学が困難な場合は、職員が出向いて面談し、面識を持った上で利用を開始するように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との関係を家族同様と考えており、お互い注意し合い、励まし合い、感謝し合いながら日々の暮らしを送っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が思いを表現しやすいように、会話を多く交わし、少ない言葉や表情から一人ひとりの意向を把握するように心がけてケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族および職員との話し合いの他に、介護支援経過記録から課題を把握し、介護計画に反映させて、その人らしい計画が作成できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しに加え、状態変化に応じて本人、ご家族、職員と話し合い、現状に合わせて介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や状態急変時の受診付き添い、ドライブなど柔軟に対応し、安心して楽しみのある生活が送れるように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医を入居時に確認し、連携を取りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する前の段階から、本人およびご家族の意向を確認した上で記録に残している。また、状態の変化に応じてその都度、本人およびご家族と話し合いの機会を持ち、思いの変化を把握するように努めている。ホームとしての方針は、口頭で本人、ご家族に伝えられているが、今のところ明文化には至っていない。	○	方針を口頭で伝えて共有化を図っているが、関係者全員が十分な共通理解のもとで、重度化や終末期に向けて対応するためにも、方針の明文化を早急に検討していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個別の状況に応じて、食事介助やトイレ誘導・介助など、周囲に気配り目配りをしながら接している。記録などの個人情報については、ユニット(フロアー)別に整理し適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の日課を押し付けることなく、一人ひとりのペースで過ごせるように支援している。利用者の言葉から思いを把握し、希望に沿えるように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑でできた野菜をメニューに取り入れ、季節感のある食事を提供している。行事の際には、器や盛り付けにひと工夫しながら準備し、楽しんで食事できるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりのペースやタイミングに合わせて声かけを行っている。個人別に入浴の有無を記録に残して職員間で共有しながら、週3回程度は入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしに役割を持つことで、利用者が張りのある生活を送れるように支援している。昔ながらの作業を取り入れて、懐かしい雰囲気の中で楽しく行えるように工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に左右されるが、できるだけ毎日屋外に出て、開放された雰囲気を感じることができるよう心がけている。本人の希望に沿って、買い物や畑仕事など、日常的に屋外に出る機会を多く取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに職員間で連携を取りながら、ケアを行っている。利用者が外出したい時の癖を把握し、外出されそうな場合は無理に止めることなく、さりげなく付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、地域住民にも協力を呼びかけて防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練にも参加し、AED(自動体外式除細動器)を使用した訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連する医療機関の管理栄養士より栄養バランスの指導を受け、適切な食事が提供できるように努めている。食事量については毎食、個人別に記録し、水分量は1日のおおまかな摂取量を設定して、確実に摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある植物や野菜を飾り、ホームの中でも季節が感じられるように工夫されている。至るところにソファが置かれ、ゆっくりと過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族に馴染みの物の持込みを勧め、過ごしやすい居室となるように支援している。居室にはソファや仏壇などが置かれ、一人ひとりの個性に合わせた心地良い空間となっている。		